

6月25日

# 自治体要請キャラバン行動スタート



吉川市キャラバン



松伏町キャラバン

## 2019年度の自治体要請キャラバン行動にむけて要請団役員会議を開催

5月30日に埼玉社保協の第126回運営委員会を兼ねて要請団役員会議を開き、11団体11地域から61人が参加され、自治体要請キャラバンに向けて意思統一しました。

今年是全国的に12年に一度ある統一地方選挙と参議院選挙が重なる年です。同時に埼玉では県知事選挙も行なわれ、区にと県、市町村に対する施策を要求する絶好の機会が与えられています。キャラバン行動は連続する選挙のはざまで行なう事になります。安倍政権の横暴で社会保障が連続して改悪されていますが、これに市町村がどう立ち向かうのか問われていることを訴える重要な機会となります。

今年のキャラバンは昨年と同様の日程で行ない

ます。事前アンケートも4月1日付けで調査を行いました。4月中にはほぼ回答が届き、資料集の印刷もこの会議に間に合わせる事ができました。要望書と懇談事項は、団体・地域からの要望を整理して作成しました。今年も5つの分野について要望し懇談します。5つの分野についての事前アンケートの結果を参考に、各地域の現状や事例などを懇談では発言していただき、前向きな回答につながるよう要請します。

今回はアンケートの特徴は、医療を段事務局次長、介護を舟橋事務局次長、障害福祉を若山障埼玉連事務局長、生活保護を保土田事務局次長が前年との比較などを行ない報告しました。

埼玉県全体の人口はやや人口が増えていますが、市町村別にみると42市町村が人口減です。

(1面からの続き)



キャラバン要請団会議

国保世帯では越生町だけ増え、他は減少しています。昨年からは国保は都道府県化したことから、「県

統一国保」にむけて4方式から2方式へ、法定外繰入の減額が連続して行なわれています。その結果法定外繰入が2017年度予算と比較して2019年度予算は全県で153億円、1世帯当り2万1345円も減額されています。国保税の値上げを今年15自治体が行ない、2年間で42自治体が値上げしています。4人世帯所得300万円のモデル世帯と比較すると2年前より平均で2万9881円引上げとなっています。

こうした住民に負担を強いるのは「給付と負担の公正性」「制度の持続可能性」を強調する安倍政権の政治にあります。介護や障害者福祉、保育や生活保護の拡充にむけて、市町村も国の施策に対峙するよう要請してまいりましょう。

(埼玉社保協 川嶋 芳男)

## 加須市に31番目の地域社保協誕生！ 6月18日、「加須市の社会保障をよくする協議会」を結成

6月18日に埼玉社保協に31番目の地域社保協が誕生しました。数年前から自治体要請キャラバン行動に参加する団体などとの相談を行ってきましたが、6月28日に加須市との懇談を前に「加須社保協」が活動を開始しました。

キャラバンでは国保など住民の要求である社会保障の拡充を求めて発言していく予定です。

加須市の国保は、都道府県化した昨年度に4方式から2方式に保険税率算出のしくみを変更し、今年も後期高齢者支援分の均等割額を引上げ、2年連続の国保税の値上げを行なっています。一方で一般財源からの繰入は2億3400万円、1世帯あたり12,402円も前年より減額しています。

総会での経過報告では、各団体の要求を東ね社会保障が充実した住民主体のまちづくりをすすめ

るために社保協を結成したと述べています。関係者の皆様のご努力に敬意を表し、今後の益々の組織の強化・発展を祈念するものです。

総会では酒巻圭一副会長、島村浩樹事務局長ら会長を除き推薦された役員が全員承認されました。会長は引続き候補となる方との折衝をつづけます。今後とも関係する団体や組織の皆様のご理解と御協力をよろしくお願ひします。

(埼玉社保協 川嶋 芳男)

## 子ども若者の貧困の現状と自治体の役割 -NPO彩の国子ども-

若者支援ネットワーク代表白鳥勲氏-  
埼玉自治体問題研究所

第44回定期総会で記念講演

6月8日に埼玉自治体問題研究所第44回定期総会が開かれ、県政分析などの18年度の活動をふりかえりと19年度の活動方針などを確認しました。総会に先立って記念講演が行なわれNPO法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク代表の白鳥勲氏が「子ども・若者の貧困の現状と自治体の役割」と題して、貧困の連鎖を断ち切るため政治や行政の責任を提起されました。

白鳥氏が行なっている活動は、現在108教室を運営し1,600人の子どもたちを支援しています。この活動が4月にNHKの「首都圏情報ネタドリ」の番組で放映されました。これをまず視聴しました。学習を支援する土屋さんが約5ヶ月後に工業高校に受検合格するまでを記録していました。認知症の叔母の家で兄弟で暮らしているコーヘイ君は、中学3年の長期の不登校です。自宅を訪問する支援員の土屋さんに対して当初はなげやりな姿勢でした。しかし土屋さんは常に根気よく聞き取り寄り添う対応を行ない、その結果コーヘイ君も本音を語り工業高校への受検に挑戦するまで姿勢が大きく変化していきました。見事受検に合格しましたが、白鳥氏はむしろこれからが正念場で、毎日高校へ登校することが課題と言います。関係者へのアンケートによると①身だしなみ、②宿題をやっている、③食事がとれ空腹ではない、④「行ってらっしゃい」と言ってくれる人がいる、などがないと登校できなくなる可能性が高いのです。土屋さんのように、家庭訪問を基本に寄り添った支援の活動は、市場原理、金儲けの原理ではながく続けることは難しいでしょう。憲法の理念にそって子どもたちの学習支援の向上を国や行政の責任に拡充しなければなりません。

(埼玉社保協 川嶋 芳男)

## どうなる これからの医療制度 新座社保協・創立20周年記念講演



1999年8月に新座市社会保障推進協議会が結成され20周年を迎えました。介護保険制度発足を前に、市内

8カ所で学習会を開催した労働組合や市民団体の力が結集され結成につながりました。その後毎年のキャラバン行動を中心に、事前学習会や懇談での発言や参加組織に取り組んできました。

6月17日に行なった総会には21人、記念講演会には約60の方が参加されました。総会では、これまでのキャラバン行動の経過をふりかえりながら、この間の新座市の福祉の後退の動きを許さず、「力を合わせていのちと暮らしを守れ」の運動を発展させようと意思統一しました。

総会后に医師の本田宏さん(医療制度研究会副理事長)を迎えて今年の自治体要請キャラバンの事前学習も兼ね創立20周年記念講演会を行いました。本田氏はスライドを駆使して、医療や福祉の歴史を織り交ぜながら、日本の医療制度の問題点や課題を説明していただきました。日本の医師不足は危機的でOECDの平均と比較すると、医師は12万人も不足している。医師の過労自殺は後を絶ちません。日本の薬剤は世界一高いのに、厳しい病院経営は改善されない、世界で医療費負担は窓口無料が当たり前なのに日本は医療費が高く時代に逆行している。様々な問題の根底には、国の医療費抑制政策があることを指摘されました。また、「財政危機だから」という言葉は『呪いの言葉』。この言葉で消費税の値上げや社会保障改悪が、いともたやすくできてしまう。騙されないように、しっかりデータを見て、ものごとの本質を見ようと呼びかけました。

新役員 会長大森敬蔵、事務局長朝妻幸平(医療生協)、次長小島康正(生健会)、次長升川裕允(年金者組合)

(新座社保協 朝妻 幸平)



## 市民と野党の共闘をさらに強めよう 北浦和公園に1万2千人が結集

6月2日「立憲主義を取り戻す！戦争させない！9条こわすな！6.2オール埼玉総行動(オール埼玉総行動)」



が北浦和公園で開かれ、1万2千人が集いました。開会に先立つオー

プニングではトランペットの演奏と埼玉うたごえ協議会の方々による合唱があり、トランペットのファンファーレで集会が開会されました。主催者を代表して小出実行委員長が開会挨拶を行ない「改憲を許してはならない。平和を守るため3000万署名に取り組み、選挙に勝つことだと指摘し、野党共闘の力で安倍改憲阻止のために頑張ろう」と述べました。

後援団体として、埼玉弁護士会の吉澤俊一会長、連合埼玉の佐藤道明事務局長、埼玉労連の穴戸出事務局長、県民への対話を進め、勝利する決意を固め、ともに頑張らましようと呼びかけました。

続いて、ゲストスピーカーとして、国際ジャーナリストの伊藤千尋さんがスピーチしました。伊藤さんは「憲法9条をつくったのは日本人だと述べ、総理大臣の幣原喜重郎がマッカーサーに提案した経緯を述べ、今日本が誇れる唯一誇れる日本国憲法を広めることが世界史的役割だ」と述べました。

その後、立憲民主党の枝野幸男代表は、国民民主党の大島敦衆議院議員、日本共産党の塩川鉄也衆議院議員、社民党の福島瑞穂参議院議員の4野党が挨拶されました。

閉会挨拶で野田静枝副実行委員長が「埼玉から日本を変えましよう」と呼びかけました。

集会終了後、浦和駅と南与野駅へ向けてパレードが行なれました。



## 上尾社会保障をよくする会が総会を開催



6月25日、上尾市北足立北教育会館で上尾社会保障をよくする会第22回定期総会が開かれ、20人が参加され1年間の活動の振り返りと新年度方針を確認しました。そして会長に森幸一さん(生健会)、事務局長に岩本孝子さん(医療生協)ら役員を選出を行いました。

7月4日に予定している自治体要請キャラバン行動についての学習と市内で問題になっている「つくし学園」の統廃合問題について障害(児)者の生活と権利を守る上尾市民の会の保住さんから報告をしていただきました。

### 第47回中央社会保障学校in石川

日時 8月29日(木)～31日(土)  
会場 石川県教育会館3Fホール  
(2日目)分科会会場 金沢商工会議所  
石川県教育会館

- 1日目 小森 陽一氏(日本文学者/東京大学教授)  
井上 英夫氏(法学者/金沢大学名誉教授)  
講演後はお二方の対談
- 2日目 鈴木 静氏(愛媛大学教授)  
長友 薫輝氏(三重短期大学教授)など
- 3日目 斎藤 貴男氏(ジャーナリスト)

講演の他、2日目にはテーマ別の分科会(6分野)とシンポジウムを開催します。

申込用紙にてお申し込み下さい。  
お問い合わせは埼玉社保協まで

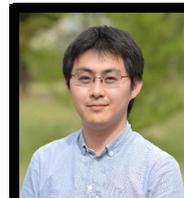
## 埼玉社会保障学校 開校のお知らせ

日時 9月8日(日)10:00～16:30  
会場 さいたま共済会館6階大ホール  
さいたま市浦和区岸町7-5-14  
電話048-822-3330  
参加費 4000円  
お弁当代 1000円(希望者)

**第1講座**  
「社会保障としての国保をめざして」  
講師 長友 薫輝(まさてる)氏  
三重短期大学教授



**第2講座**  
「格差と貧困は立ち向かう実践と今後の課題」  
講師 藤田孝典 氏  
聖学院大学客員准教授  
NPO 法人ほっとプラス代表理事  
反貧困ネットワーク埼玉代表



**第3講座** 「新しい階級社会  
～日本社会の構造改革～」  
講師 橋本 健二氏  
早稲田大学人間科学学術院教授  
社会学



### 埼玉社会保障学校 開校のご案内

2019年は連続する選挙が続き、秋からの政局は予断を許さない情勢です。

経済的格差と貧困の進行をくい止める政治への転換がはじまる転機となるのか、平和が脅かされ、大企業優先の政治と経済政策が推し進められていくのか、歴史的な岐路にたたされています。

こうした深刻な情勢ですが、その大もとをつかみ、打開の方向を明らかにする第27回埼玉社保学校を開校します。第一線の講師がそろいました。みんなで学んで、明日からのたたかうエネルギーをたくわえましょう。

◆申し込みの締めきり◆ 8月30日(金)  
申込書にてお申し込み下さい。